

認定総合監理検査技師制度 — 検討ワーキンググループ報告 — 米坂知昭

「認定総合監理技師制度」を立ち上げるに当たり、この制度の持つ意味を十分に検討し方針案を作成するためのワーキンググループ(WG)が設置された。ここに、3回にわたる検討会を実施した結果を報告する。

については、平成 22 年度の日臨技新体制において本制度開設に向け準備を本格化していただきたい。

1. 臨床検査技師に求められるもの

現在、臨床検査技師は約 16 万 9000 名の免許取得者がおり本年度の新規取得者を加えると 17 万人を超えるものと思われる。臨床検査を生業として糧を得ている人々の実数は正確には掴みませんが、凡そ 10 万人前後と推測されます。

一般社会における臨床検査技師の知名度は、医療業界のそれとは比較にならないほど低いものですが、会員の皆様の活躍で徐々に浸透しつつあるようです。

臨床検査技師が本業である臨床検査において知識や技術を研鑽することは当然の責務ですが、一般社会人としてみたときに一体何が必要とされるのでしょうか？また、法人格を有する組織として一般社会の中でどのような存在であるべきなのでしょうか？

それは我々自身が評価するのではなく、一般社会からみた評価によって臨床検査技師と言う職種としての価値や本人の手柄等が峻別され位置づけされます。その典型例は、「臨床検査技師は専門分野については勤勉実直だが、社会性がね、ちょっと欠けているかな」と言った具合です。

実は臨床検査技師だけでなく医療職種全般に共通して言えることで、よく言う「業界の常識は世間の非常識」と同じことです。そこで課題となるのが一般の常識(Common sense)とは何か？ということになります。

常識とは辞書的には「一般の社会人が共通にもつ、またもつべき普通の知識・意見や判断力」と解釈されます。言い換えると「共同社会生活の中で人々がそれぞれに自己を確立させ、より良く生きるための共通規範ツール」とも言えるのではないのでしょうか。

臨床検査技師の卒前・卒後教育に必要な要素は実は 2 つ有り、1 つは医療分野(特に臨床検査分野)における不断に進化する技術と恒常的に深化を求められる専門的知識の習得であり、もう 1 つは一生涯において自己を成長させるための幅広い分野にわたる社会行動規範や教養の会得ではないかと考えます。

前者は専門家と称される人々からの知

識や技術の享受が可能ですが、後者は本人の自己研鑽意欲に大きく左右され、人生の師を得ることも大切ですが、最終的には独学の志と継続性が重要な要素と思われます(真似できるものと出来ないもの)。更に加えて言えば、それらのツール(知識や技術等)を人々のより良い生活や個人の人生にどう反映させるかが課題です。

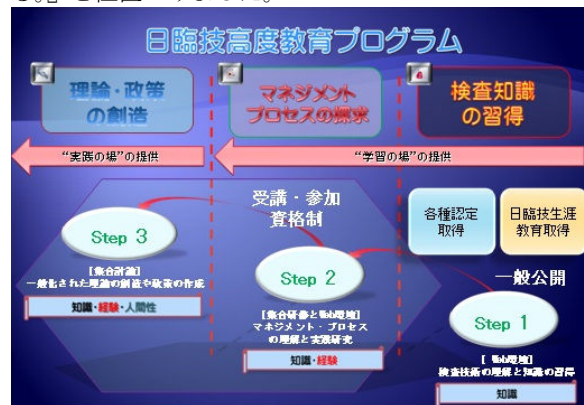
例えば核融合の知識や技術を戦争兵器として利用すれば人類の滅亡は必定となり、また平和利用として安全性(一時、放射能漏れが環境破壊問題となり原子力発電が世界的に減少傾向にあった)を確保した上で発電に利用すれば人々の暮らしに有用となり、地球温暖化防止にも期待されます。

2. 日臨技の教育プログラム(図 1)

「認定総合監理技師制度」を考える上で重要となるのが日臨技としての卒後教育を含む教育プログラムです。

それらを連動させて考えなければこの認定の価値も半減してしまいます。ここでは日臨技の教育プログラムについても若干触れることとします。

そのスローガンを『日臨技高度教育プログラム(仮称)とは、卒後教育の最高峰を目指し、先端技術・知識を適宜採用することで、日々進化するプログラムである。』と位置づけました。



〈図 1 日臨技教育プログラム〉

1) 日臨技が提供する 2 つの“場”

日臨技高度教育プログラムでは、2 つの場を提供します。

1 つは、従来から提供してきた“学習の場”であり、集合研修、Web 研修を開催し、学ぼうとする意欲に応える場を提供します。また、漫然と学習するのではなく、日臨技生涯教育制度とリンクすることにより、学習の成果を記録として残し、各種認定受験資格の取得を可能とさせます。さらに、将来に向けては各種認定試験対策講座の開設や模擬試験の実施も視野に、目標を持った“学習の場”を提供しようと考えます。2 つ目は、“実践の場”の提供であり、研修や認定試験を修了し、知識・技術・人間性に優れた人材には、理論の確立、政策の立案、特許の取得を目指す

ための“実践の場”を提供することが重要と考えます。そして、日臨技発の研究成果を広く社会に還元するための人材育成、即ち社会に影響を及ぼすことのできる人材の育成が必要条件となります。

2) 3 つのステップ

日臨技高度教育プログラムでは、以下の 3 ステップから構成されます。

・STEP 1 検査知識の習得 / ・STEP 2 マネジメントプロセスの探求 / ・STEP 3 理論・政策の創造

これらのステップは、独立したのではなく、相互に連携し、行き来する構成となります。各ステップ修了者やステップ内の単元修了者によるテキストの改定、指導なども修了者の資格更新課題の 1 つとなります。

3) STEP 1 検査知識の習得

従来、集合研修が主であった日臨技主催の研修会を Web にて配信することで、場所や時間を気にせず学習してもらう場を提供し、さらに、制止画像・動画の配信を行い、Web 上のアトラスとして、日常業務に使用できるコンテンツを充実させることで、会員の臨床検査に関する知識や技術の向上を目指します。

また、学習にて習得した知識を再確認し、知識の定着と学習の進捗を自己管理するためのテストを掲載することで自己研修の継続性を図ります。

4) STEP 2 マネジメントプロセスの探求

ここから「認定総合監理技師制度」を中心としたステップになります。

「認定総合監理技師制度」は、国民に対し、質の高い組織的臨床検査サービスを提供することを目指し、一定の基準に基づいた臨床検査管理者を育成する体制を整え、臨床検査管理者の資質と臨床検査情報の水準の維持および向上に寄与し、医療経営に参画し得る人間性豊

かで胆力保有の検査技師の認定を目的とした制度となります。

認定総合監理検査技師は、日臨技認定センターの試験に合格し、リーダーとして優れた資質をもち、創造的に組織を発展できる能力を有すると認められた者を指します。

認定総合監理検査技師は、医療並びに公衆衛生の向上を図り、国民の健康保持、増進に貢献すると共に自己研鑽としての教養を身につける必要があります。

また、激しく変貌する経済・産業環境変化のもとで、常に一定水準以上のサー